



図書館だより

2013.06 号 NO.1

1. 館長挨拶 (2013年4月1日 就任)

- ・ 図書館に求めるもの！

2. 組織図 (2013年4月1日付)

- ・ 2013年度 業務分掌

3. 図書館統計 (利用報告-その1) (2011年度 2012年度)

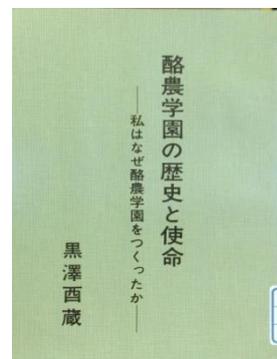
- ・ 登録総冊数 及び 開館数
- ・ 入館者数・貸出数・貸出冊数 (グラフ)

4. 図書館統計 (利用報告-その2) (2012年度)

- ・ 貸出利用図書 ベスト 10
- ・ 学生購入希望図書の状況

5. お薦め図書

- ・ 暑い季節のお薦め図書



図書館 3F (建学原論コーナ)

図書館に求めるもの！

附属図書館長 岩井 洋
(環境文化論研究室)

海外の大学を訪問すると、真っ先にその大学図書館に案内されます。それは大学図書館こそがその大学の知の伝統と歴史を体現し、その大学の教育・研究の源を象徴的に示すからに他なりません。しかし大学図書館のその外観は重厚そのものでも、その図書館の中に入ると、知を求めた歴代の人々の残した息づかいやその心が建物全体に染み込んだ「人やさしさ」が広がっている感があります。

今春九州のさる大学を訪れましたが、その大学の構内では新図書館の工事が盛んに行なわれ、その工事現場では多くの作業関係者が動き回り、けたたましい音を立てて電気ドリルが鳴り響き、掛け声とともに大きな鉄骨がクレーンで持ち上げられ、あるいはコンクリートミキサー車が横付けされていました。工事現場正面には、完成予想のシミュレーション写真が、壮大な新図書館の完成予想図を誇らしげに示していました。

しかし「大学図書館」は多くの工事関係者、多くのガラスや鉄骨、猛烈な騒音の電気ドリルから生まれるものではありません。完成予想写真もシミュレーションならではの予想であり、それは図書館に息づく知の殿堂たる図書館としての「品位」のようなものは全く描かれず、単なる二次元平面上での架空の無機的建物であり、それは決して「図書館」を描いてはいないのです。

どれほど立派な図書館が出来ても、それは建物ではあっても「図書館」とは言えないのです。新図書館の工事は量や嵩(かさ)は正確に見事に作るけれども、図書館の命である「人やさしさ」の「品位」は工事によって作ることはできません。

図書館を利活用する人の知への情熱的営みの積み重ねこそが、重厚で奥行きのある「図書館」を生み出し作り上げます。図書館の「品位」は知に向かう人間のパッ

ション(情熱)の激しさと積み重ねる時間により作られます。パッションが時間のなかで積み上げる知の殿堂たる「人やさしさ」こそが、大学図書館の命であると私は考えます。

こうした「人やさしさ」こそが、ますます多くの知を求める人を呼び入れ育て上げてくれます。本を読み調べる、あるいはインターネットで本を検索し読み込む、あるいは電子媒体を利活用し調べるという知の営みの蓄積が、「品位」を生み出し高めます。

図書館の本質とは、現代思想的に言えば<物象化>による幻想的像でしかなく、それは現実的には本や情報機器、机・椅子や人間が存在するのみの無機的空間でしかありません。上記の九州の某大学の工事後の完成予想写真もその工事も、大学図書館の知の蓄積たるあるいは知を求める人々のアクセス・ポイントならではの「人やさしさ」を伝えることも直接に生み出すこともできないのです。図書館を利活用する人々の営みの歴史こそが「図書館」を作り上げます。

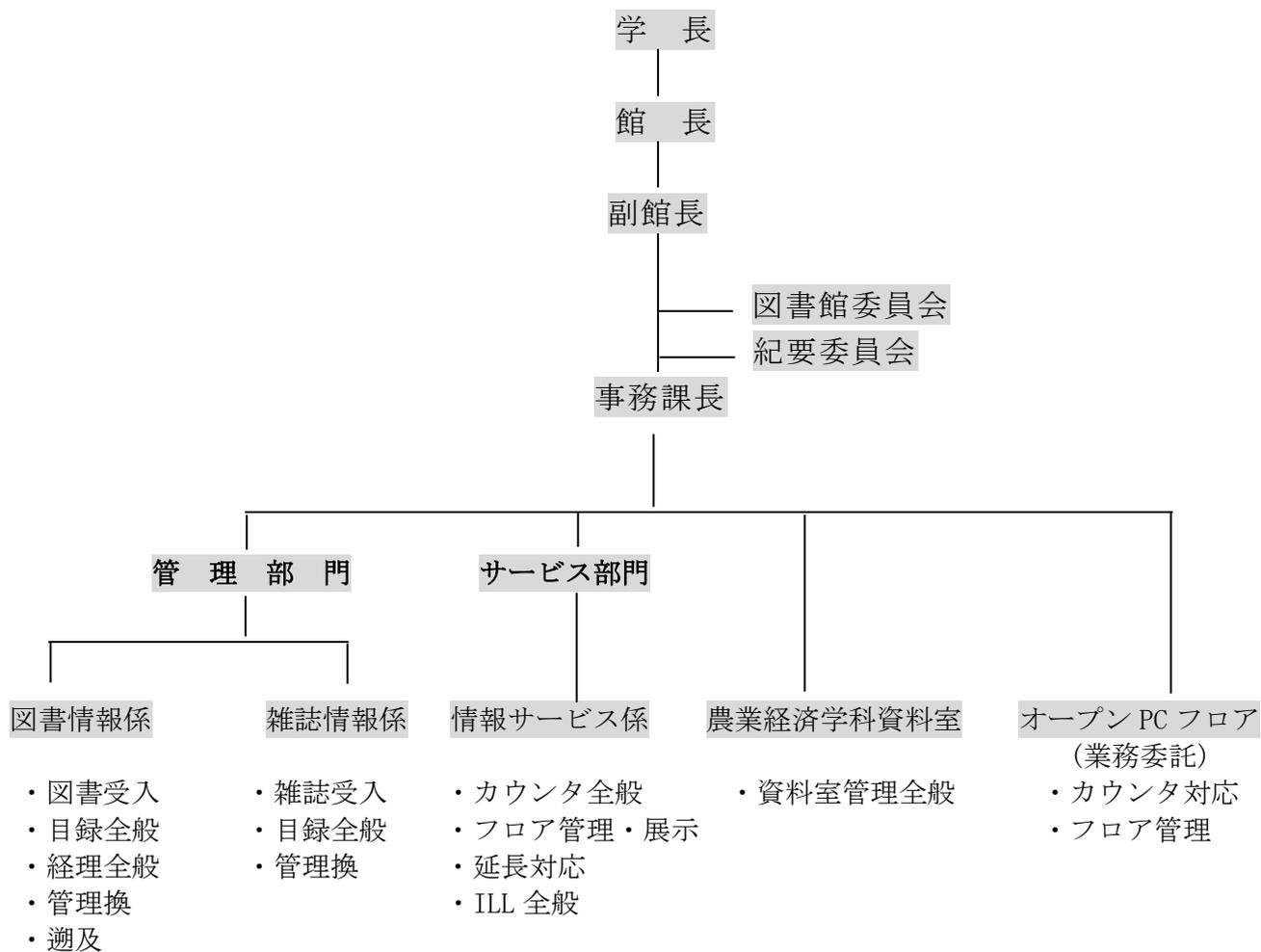
学生の皆さんが卒業後に自分の居たゼミ室を再訪するように、皆さんが知の営みを刻み込んだその図書館をも再訪したくなる、そのような「人やさしさ」漂う図書館になってほしいと私は期待するものです。そしてそのために尽力したく考えています。皆さんが図書館を多いに勤勉にそして情熱的に利活用されるのを、心から期待しております。



(図書館 3F Information Floor)

組織図

2013年度 業務分掌

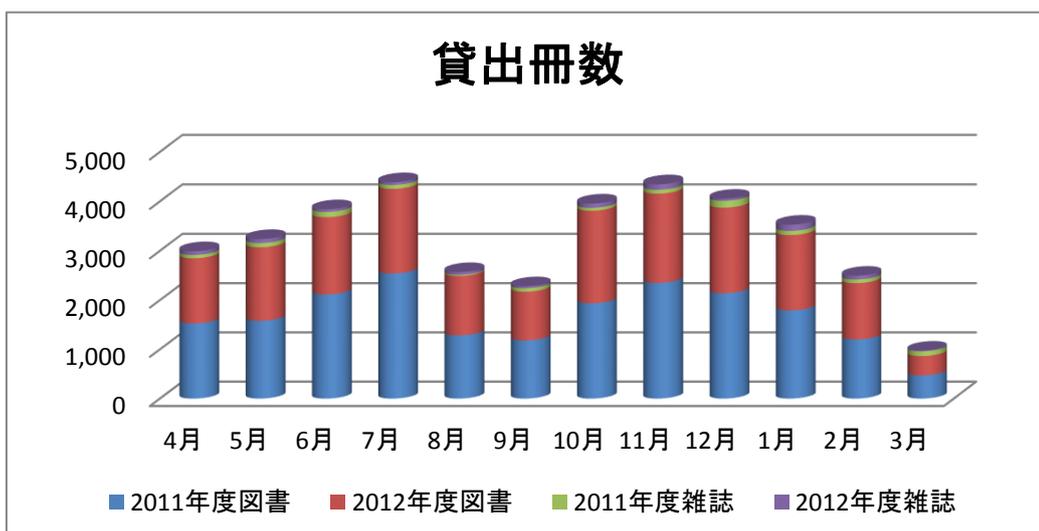
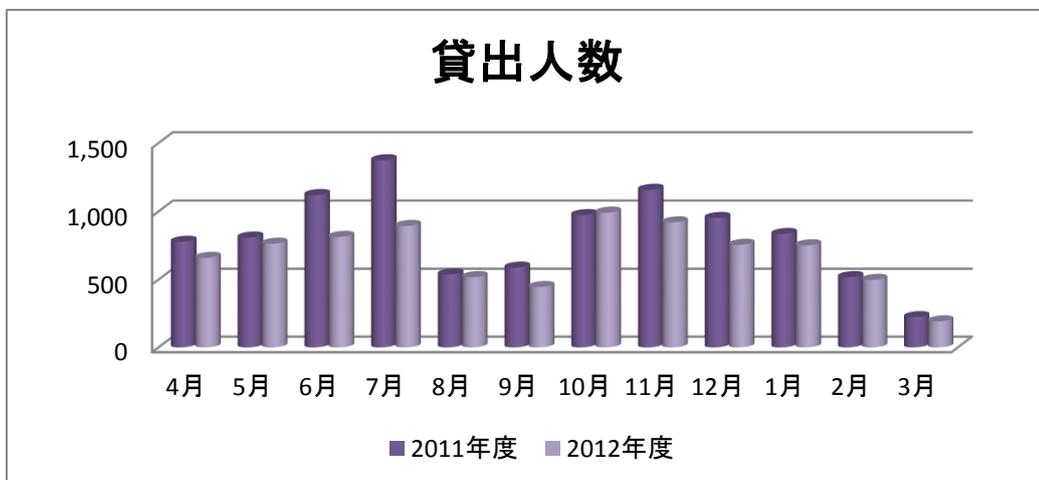
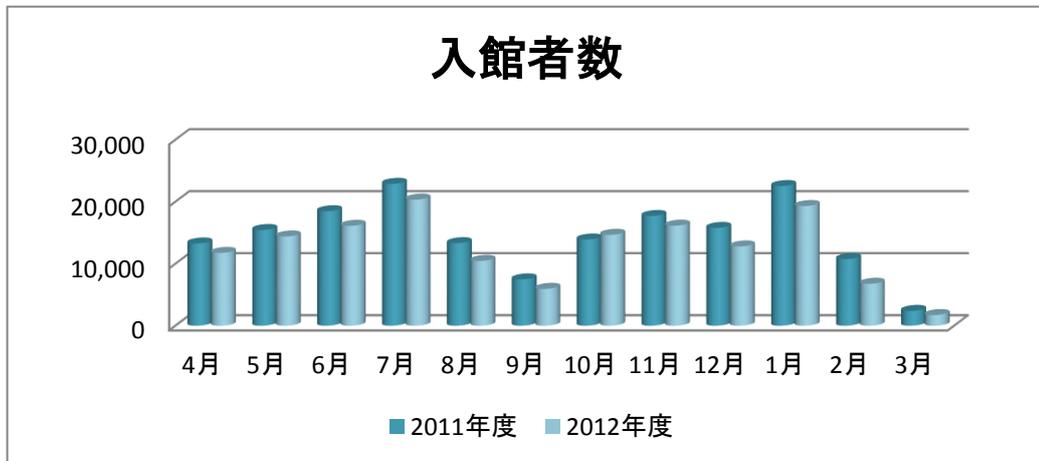


※図書館委員会事務局 (事務課長兼務)

※紀要委員会事務局 (専任職員兼務)

図書館統計（利用統計-その1）

受入状況	2011年度	2012年度
登録総冊数	338,121	341,115
開館日数	289	284



図書館統計（利用統計-その2）

2012年度 貸出利用図書 ベスト10

書名	著者	出版社	出版年	分野
エゾシカの保全と管理	梶光一, 宮木雅美, 宇野裕之編著	北海道大学出版会	2006.11	自然科学・医学
生態学からみた野生生物の保護と法律：生物多様性保全のために	日本自然保護協会編集	講談社	2010.11	
標準生理学	小澤滯司, 福田康一郎総編集	医学書院	2009.4	
成功する「生ごみ資源化」：ごみ処理コスト・肥料代激減	中村修, 遠藤はる奈著	農山漁村文化協会	2011.9	技術・工学・工業、家政学
スモールアニマル・サージェリー 上下巻	Theresa Welch Fossum[ほか]編著	インターズー	2008.5	産業
動物病理カラーアトラス	日本獣医病理学会編	文永堂出版	2007.2	
小動物臨床腫瘍学の実際	Stephen J. Withrow, David M. Vail編著	文永堂出版	2010.1	
舟を編む	三浦しをん著	光文社	2011.9	文学
図書館戦争	有川浩著；徒花スクモイラスト	メディアワークス、角川書店(発売)	2006.3	
1Q84(ichi-kew-hachi-yon) : a novel	村上春樹著	新潮社	2009.5	

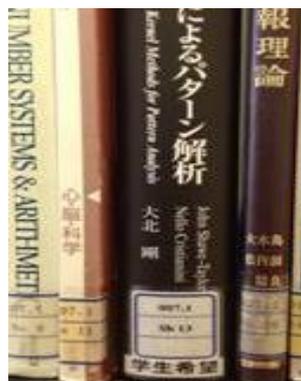
2012年度 学生購入希望図書の状況

分野	分類	冊数	構成比
総記	000	2	2%
哲学	100	15	16%
歴史・地理	200	4	4%
社会科学	300	4	4%
自然科学・医学	400	34	36%
技術・工学・工業。家政学	500	6	6%
産業	600	16	17%
芸術・スポーツ・諸芸・娯楽	700	8	9%
言語	800	3	3%
文学	900	2	2%
総数		94	100%

※分類は日本十進分類法(NDC)第8版を利用しています。

-学生の購入希望図書を受け付けています-
読みたい本が図書館にない場合は、カウンターに「購入希望図書申込書」を用意してありますのでご利用下さい。

図書の背に「学生希望」のラベルが貼っています。



暑い季節のお薦め図書

1. 『まおゆう魔王勇者』

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」(まおゆう魔王勇者：1)

著者；橙乃 ままれ

出版・頒布：エンターブレイン、角川グループパブリッシング(発売)

出版年：2011. 1

請求記号：913.6||To 63||1

2013年1月から3月にかけてアニメ化された作品です。

元はネット掲示板に投稿されたものを書籍化したもので、ほぼ登場人物のセリフだけで構成されています。

RPGで遊んだことがある人であれば一度は「魔王と勇者の戦いが終わった後、世界は本当に平和になるのか？」と考えたことがあると思います。戦いの終わった世界で、魔王(魔族)と勇者(人間)が手を取り合い様々な問題に立ち向かって行く姿を政治や経済、農業や商業などをまじえて真面目に描いています。

しかしそれだけでなく、魔王と勇者のなかなか進展しない恋模様や、魔王と勇者以外のキャラクターたちの活躍など見どころがたくさんあります。また、群像劇なので一人一人の物語がしっかり語られています。

私は主人公の一人、冬の王子(冬寂王)が大好きなので、その成長を見守る……なんて読み方をしていました。全5巻となかなか分量がありますが、物語に勢いがあるので一気に読めます。

2. 『奇っ怪建築見聞』(日本怪奇幻想紀行 6之巻).

出版・頒布：同朋舎、角川書店(発売)

出版年：2001. 3

請求記号：388.1||N 77||6

夏といえば怪談ですが、特に現代怪談では病院や学校、ホテル、デパート、雑居ビル……さまざまな場所が怪談の現場であり心霊スポットとされていますよね。

この『奇っ怪建築見聞』では今まで心霊スポットと呼ばれていたような場所——つまり廃墟をはじめとする奇妙な場所を紹介しています。埼玉の岩窟ホテル、横浜の根岸競馬場などの廃墟本に掲載されるほどの有名どころは勿論、目黒雅叙園、旧芝浦遊郭見番(2009年港区有形文化財指定)、竹平寮(2000年頃に取壊し済)、旧小笠原伯爵邸(2013年現在、改修されレストランに)などの東京都周辺の奇妙な場所を紹介しています。

また、心霊スポットとして名高い高島平団地や「実在する幽霊屋敷の話」など、身近な怖い噂・怪談・都市伝説も掲載。この本は東京が中心ですが、北海道のものが載っている本もたくさん出版されています。

もしこの本に心惹かれましたらチェックしてみてくださいね。

心霊スポットや廃墟に実際に行くのは危険なのでおすすめできませんが、本の中だけでも思う存分恐怖を味わえますよ。

図書館の資料検索(OPAC)で検索してください。そこからスタートです。



(図書情報係 N.T)